

**卓越した大学院拠点形成計画の概要**  
 (平成25年度「卓越した大学院拠点形成」の計画は  
 以下のグローバルCOE拠点形成計画と同じものです)

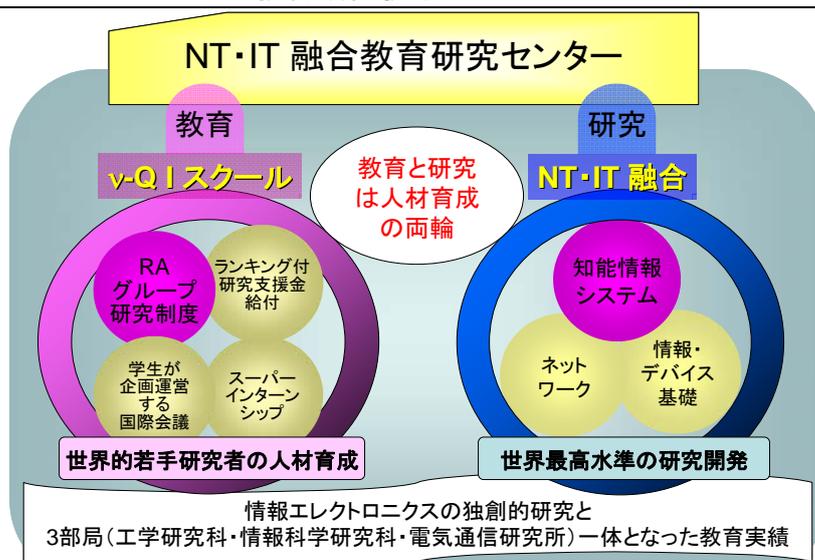
拠点のプログラム名称 | 情報エレクトロニクスシステム教育研究拠点

**【拠点形成の目的】**

東北大学は、情報通信技術(I T)分野とエレクトロニクス材料・デバイス開発に関わるナノテクノロジー(N T)分野の研究において世界を先導する独創的研究を展開してきた長い歴史と実績がある。これらを背景に、グローバルCOE拠点では、複眼的視点を持ち、独創的科学技术の創出と国際性豊かで基礎からシステム応用に至る幅広い分野で世界的な活躍ができる若手研究者の育成をはかる。

**【拠点形成計画の概要】**

グローバルCOE拠点では、中間評価で高い評価を得ている現21世紀COE拠点の優れた教育研究の実績と経験を継承しながら、以下に示すように人材育成と研究体制に新たな施策をもちこむ。教育研究活動の幅を知能情報システム分野へ拡張するとともに、大学院教育の実質化と国際化に重点をおいた教育研究を工学研究科・情報科学研究科・電気通信研究所の3部局が連携して展開する。なお、5年後以降の本拠点の教育研究活動は東北大学国際高等研究教育機構において継続・発展させていく。



**《人材育成》**

挑戦的で学際的な研究課題にとりくむ強い精神力と能力を有する創造性豊かなエリート人材の育成を目指す。教育と研究は大学での人材育成の両輪である。独創的研究を通じた教育によって初めて世界をリードする人材を育成できる。現21世紀COE拠点で設立したQ Iスクールを更に発展させる。そこでは、研究企画能力の育成を狙ったリサーチアシスタント(R A)グループ研究制度を新設する。教育的競争環境のもとで若手を刺激するランキング付研究支援金の給付、国際的に活躍できる人材の育成をめざしたスーパーインターンシップ(3~6ヶ月滞在)および学生が企画運営する国際会議開催は継続し、海外拠点との連携を強化する。この新しいQ Iスクールをν(ニュー)-Q Iスクールとよぶ。

**《研究》**

現21世紀COE拠点では情報通信デバイス研究を中心に大きな成果をあげてきた。この成果をもとに、グローバルCOE拠点では、人間性豊かなコミュニケーションを可能とするグローバルネットワークの構築をめざして、21COE拠点事業推進担当者のおよそ40%を入れ替え、研究の軸足をデバイス研究からシステム研究へと発展させる。知能情報システム研究分野へ研究の幅を広げ、研究体制を(A)情報・デバイス基礎、(B)ネットワーク、(C)知能情報システムの3グループに発展的に再編する。光・無線ネットワークの研究を重点に、情報通信デバイスと基礎理論、ヒューマンオリエンテッドな知的情報通信や、環境の自律認識・予測に基づく知能情報システムを開発する。

**《教育研究推進体制》**

幅広い分野の教育研究を成功させるための要は、シナジー効果の発揮である。拠点リーダー、ν-Q Iスクールリーダーと3研究グループリーダー(情報・デバイス基礎、ネットワーク、知能情報システム)などから構成される運営会議の意思決定のもとで、ν-Q Iスクールの運営および研究活動を行う。そして、教育研究成果の共有、教育研究活動の自己点検・見直しのため、事業推進担当者全員が参加する教育研究レビュー会議を定期的で開催する。また、民間の有識者および海外拠点の教育研究者を含む第三者評価委員会により、本拠点ですすめている教育研究活動の厳正な評価を行い、運営委員会で評価結果を分析し、教育研究活動へフィードバックする。